



新しい教養教育の一步と課題

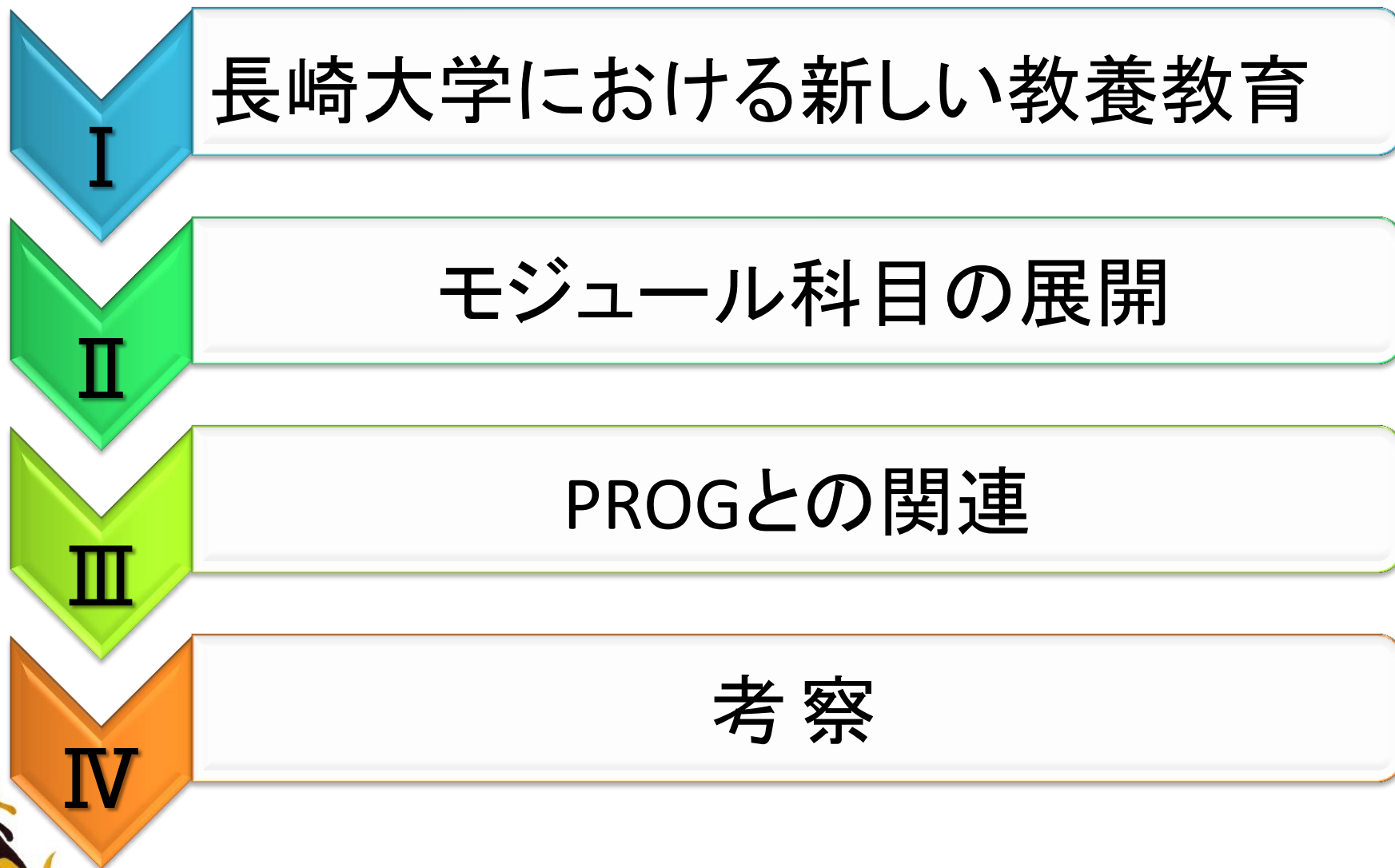
2013年5月11日

長崎大学 学長特別補佐
大学教育機能開発センター副センター長

橋本健夫



本報告の構成





1. 教育改革の目標

— 国際社会でのリーダーの育成 —

① どの国の人ともコミュニケーションができる人

➡ 世界共通語である英語の活用能力が高い

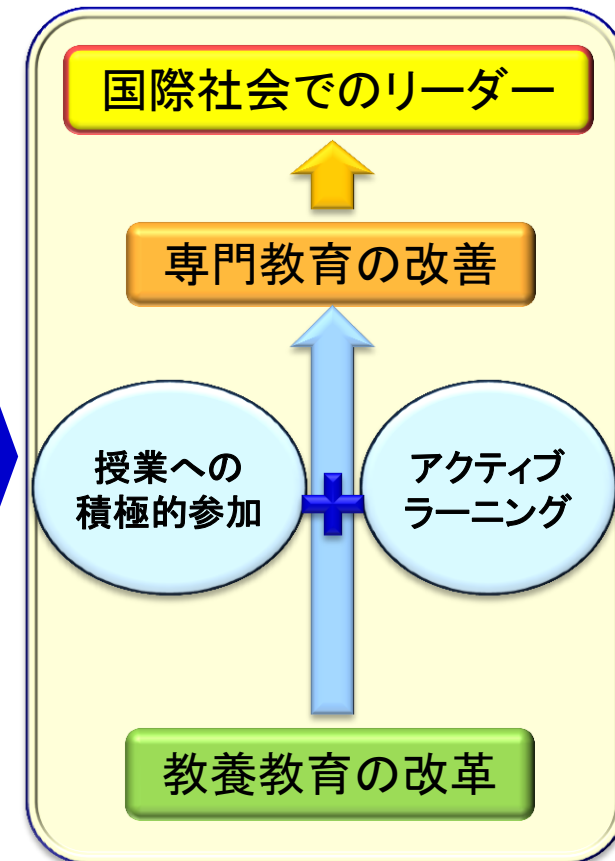
② 世界的視野で将来が語れる人

➡ 教養が高く、異文化理解ができる

③ 自己主張ができ、行動できる人

➡ 批判的精神があり、合理的に考え、行動できる

学士課程教育の改革





2. 教育改革への始動

教育を語る大学文化の創造



① 共有学士像の策定

② 共有学士像を起点とした教育論議

③ 教養教育改革 → 専門教育改革



全学共有学士像

1. 研究者や専門職業人としての基盤知識を持つ人
2. 自ら学び、考え、主張し、行動変革できる人
3. 環境や多様性の保全に貢献できる人
4. 地球と地域社会及び将来世代に貢献できる人

大学の理念





3. 学生から見た新しい教養教育改革

**必修科目
(14単位)**

**選択科目
(16単位)**

人文・社会科目

人間科学科目

自然科学科目

総合科学科目

情報処理科目

従来の全学教育



**多くの
科目を
選択**

Aくん

30単位



**多くの
科目を
選択**

Bさん

30単位

**必須科目
(14~18単位)**

選択必修科目

全学モジュール
10~12テーマ
(12単位)

学部モジュール
(12単位)

自由選択科目
(2~4単位)

新しい教養教育



**興味ある
テーマの
全学モジュール
を選択**

Aくん

40~46単位



**興味ある
テーマの
全学モジュール
を選択**

Bさん

40~46単位

学生一人一人が科目を適切に選択し、それらを有機的につなぎ合わせることによって能力形成

興味あるテーマの全学モジュールを選択し、積極的に授業に参加すれば能力形成



4. 長崎大学の新しい教育体制

国際社会でのリーダーの育成



キャンパスライフ



5. 新しい教養教育の核としてのモジュール

モジュール

21世紀社会で求められる批判的精神や課題探求能力等の獲得を可能にする一まとまりの科目群を指し、一つのテーマを軸に構成されている。モジュールは次の二つに分類される。

全学モジュール

現代社会の課題をテーマとして取り上げ、それを多面的に学ぶとともに、その解決に向けた活動を行い、社会から要求されている能力の獲得やその基盤形成を行う。

学部モジュール

各専門分野での学びの基盤を形成し、高度専門職業人に向けた個の人間形成の基盤と専門分野の基本的な資質・能力の向上を図る。





6. モジュールの利点

- (1) 学生の興味・関心が生かされることによって学習への動機づけができる。
- (2) 10名前後の教員が100名程度の学生集団を1年半にわたり教育することにより、学生と教員のコミュニケーションが深まり、高い教育効果が期待できる。
- (3) モジュール内での教員のコミュニケーションが密になり、教育を語る文化の基盤形成に役立つ。
- (4) 1つのテーマについて、集中的に学習することにより、モジュールが副専攻的な役割を果たすことができる。

学習コミュニティの形成





7. アクティブラーニング

大学のユニバーサル化

大学教育



学校教育化



アクティブラーニング

大学のユニバーサル化のもとで入学してくる学生たちは、基礎学力が不足していることが多く、従来のような講義中心の教育に対応できない。さらに、多くの情報が飛び交う中での適切な情報を選択する能力も持ち合わせていない。しかし、大学は彼らを育て社会に送り出さなければならない。

そこで、将来社会で求められる能力の基盤となるジェネリックスキルを内発的動機づけに駆り立てられながら習得できるように学習内容と方法、そして環境を準備して、学修の活性化を行うことになった。この趣旨に沿った学修をアクティブラーニングと呼ぶ。





8. アクティブラーニングに向けた準備

(1) 教室環境の整備

- ①3人掛けから1人机へ
- ②黒板(ホワイトボード)を前面から四方へ
- ③プロジェクターを1個から数個へ

(2) 教材研究のための準備金の支給

モジュール科目責任者とモジュール科目担当者へ

(3) FDの実施

- ①先進校からの講師招聘
- ②学内での事例紹介

(4) 成果の可視化への試み

- ①アクティブラーニング用の授業評価項目の設定
- ②1年次と3年次のPROG調査(全員)





9. モジュールテーマと科目例

現代的 課題

安全・安心

環 境

経 済

国際社会

テーマ

安全で安心 できる社会

責任部局:工学部
連携部局:医歯薬/経
済・教育/環境・水産

環境問題を 理解する(A)

責任部局:環境科学部
連携部局:工学・教育・経
済・水産

現代の経済と 企業活動

責任部局:
経済学部

グローバル社会へ のパスポート

責任部局:
留学生センター

モジュール I

○健康と医療の安
全・安心 ○社会と
文化の安全・安心
○科学と技術の安
全・安心

○地球温暖化を考
える ○水環境を
考える ○循環型社
会を考える

○経済活動と社会
○企業の仕組みと行
動 ○経済政策と
公共部門

○国際的視点に立っ
た政治と法 ○国
際的視点に立った経
済 ○異文化理解

モジュール II

○医療とリスク管理 ○先端医療と
安心安全 ○社会の安全安心
○破壊事故とヒューマンファクター
○エネルギーと資源の危機

○環境と倫理 ○環境とエネル
ギー ○環境教育 ○経済活動
と環境のバランス ○海洋環境と
海の生物多様性

○国際社会と日本経済 ○地域
社会と日本経済 ○企業行動と
戦略 ○社会制度と経済活動
○経営情報と会計情報

○企業の国際展開とその課題 ○
国際機関の役割と実際 ○NPO・
NGOの国際協力 ○経済及び金
融のグローバルイゼーション ○途
上国支援と国際保健



10. 平成24年度モジュール科目と受講者数

(月・火・水組)

(水・木・金組)

テーマ名	責任部局	申込み数	調整後の受講者数
先進医学と現代社会	医	36名	48名
生命と薬	薬	28	42
安全で安心できる社会	(全)	48	90
教育と社会	教育	31	49
現代経済と企業活動	経済	16	37
環境問題を考える	環境	93	100
情報社会とコンピューティング	情報セ	125	100
グローバル社会へのパスポート	留学セ	110	100
コミュニケーション実践学	大教セ	236	100
核兵器のない世界を目指して	核廃セ	20	38
環境マネジメント	産学本部	22	47
数理と自然科学のススメ	工学	38	52

テーマ名	責任部局	申込み数	調整後の受講者数
心身の健康と生命	医	58名	61名
健康と共生	医(保)	33	34
美と健康	歯	73	73
安全で安心できる社会	(全)	81	84
教育と社会	教育	58	58
現代の教養	教育	102	100
現代経済と企業活動	経済	95	95
環境問題を考える	環境	94	99
ことばと文化	大教セ	84	88
数理と自然科学のススメ	工学	23	26
人の暮らしと海洋生物資源	水産	117	100
安全で安心できる社会	(全)	81	経済夜間主



1. モジュール編成の視点

コミュニケーション力

良き聴き手(聴く力)
良き話し手(話す力)

多文化理解能力

良き隣人(知る力)

協調・協働能力

良き友人 (働きかける力)
(前に進む力)

心を込めた「ことば」の活用

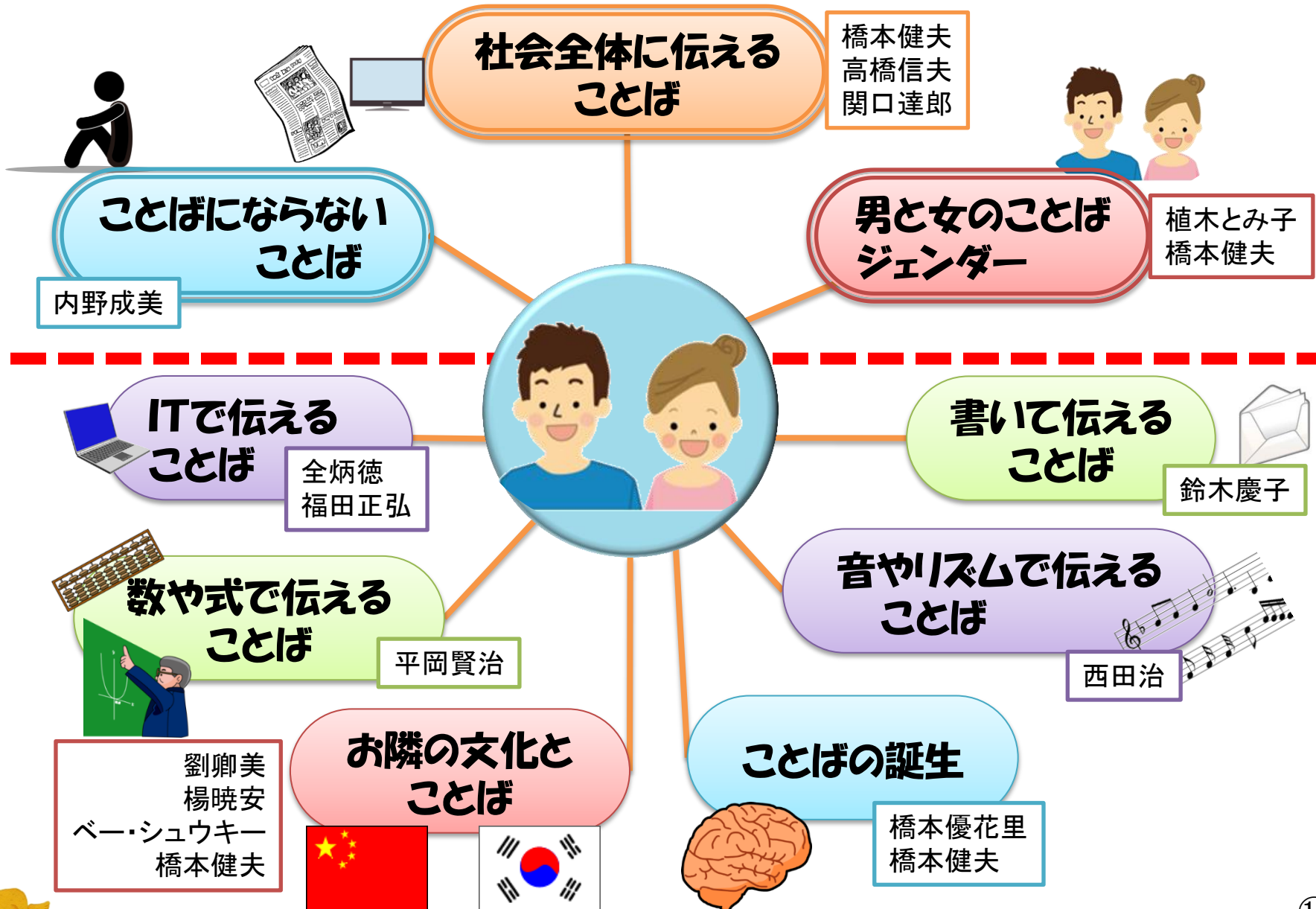


II モジュール科目の展開

2. モジュール科目の編成

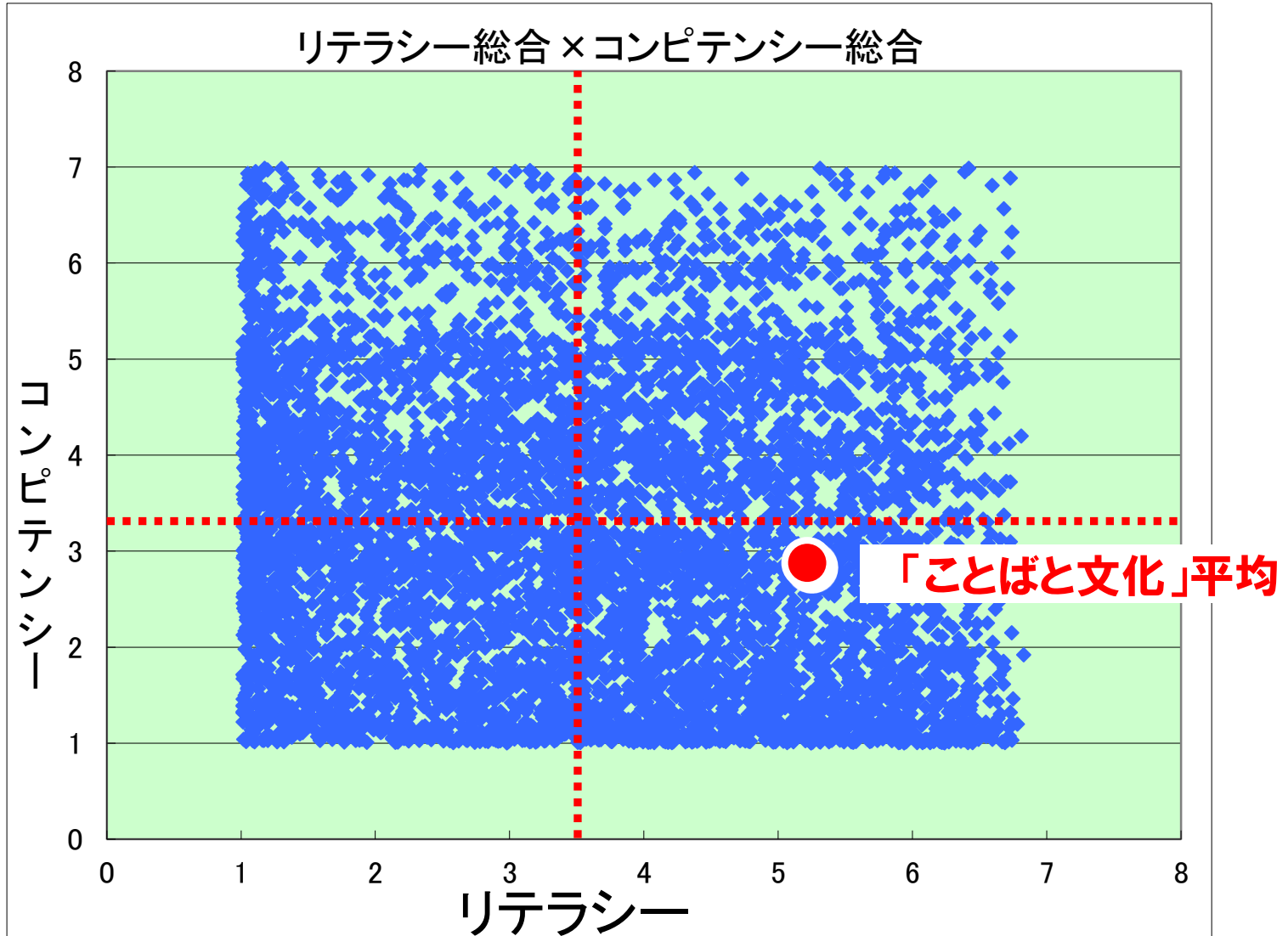
モジュールⅠ科目

モジュールⅡ科目





3. PROG調査における「ことばと文化」の位置





4. 「マスメディアと表現」の授業方針

- ①各学部が混合した班を作る
- ②毎時間班を作り、授業を受ける
- ③班での討議をもとに意見を発表する
- ④班毎のプレゼンテーションを優先する
- ⑤予習課題は個人で行い、班活動に反映する





5. 「マスメディアと表現」の授業展開

	担当	テーマ		担当	テーマ
1	全員	オリエンテーション	9	橋本	一押しのフロントランナー①
2	高橋	新聞の論説の読み方	10	橋本	一押しのフロントランナー②
3	高橋	各社の論説①	11	橋本	一押しのフロントランナー③
4	高橋	各社の論説②	12	橋本	一押しのフロントランナー④
5	関口	テレビニュースの意義	13	橋本	プレゼンの改善方法
6	関口	市長襲撃報道	14	橋本	一押しのフロントランナー⑤
7	関口	被爆者の生き様	15	橋本	自己アピールのプレゼン
8	橋本	プレゼンテーションの留意点	16	橋本	期末試験

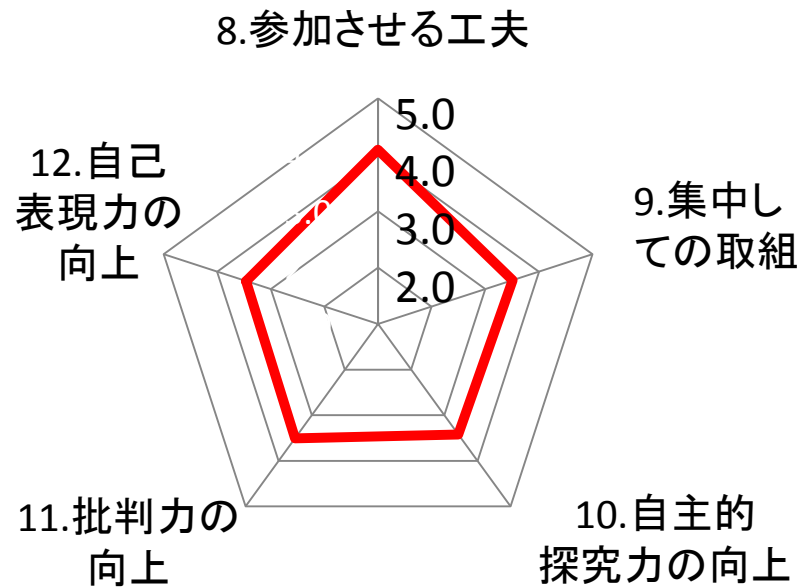
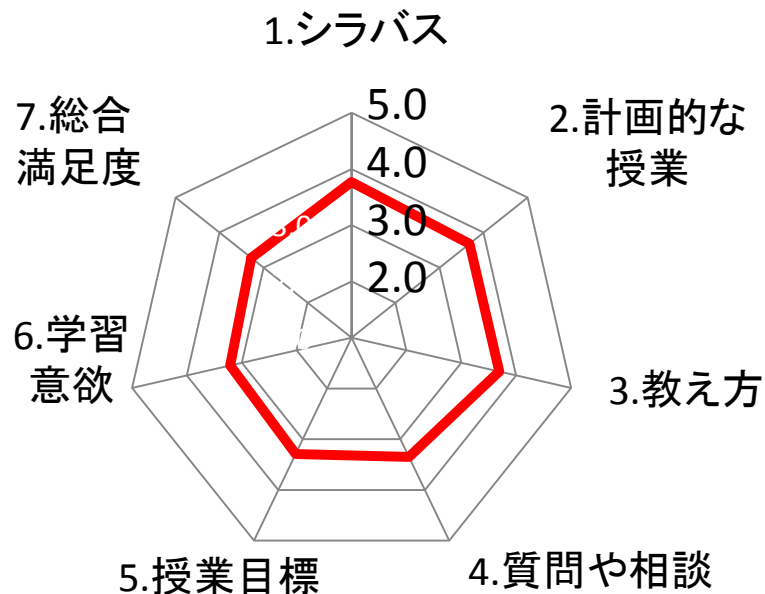




6. 「マスメディアと表現」の学生による授業評価①

共通設問別グラフ

モジュール科目の共通設問別グラフ



- 1.シラバスは、授業の目標や計画及び評価方法を適切に示していた。
- 2.授業は目的達成のため計画的に進められた。
- 3.授業担当者の教え方は適切であった。
- 4.授業担当者は、学生が質問や相談をしやすい環境・雰囲気作りを行っていた。
- 5.自分は、シラバスに記載された授業目標を達成することができた。
- 6.自分は、この授業によって学習意欲が喚起された。
- 7.総合的に見て、この授業は自分にとって満足できるものであった。

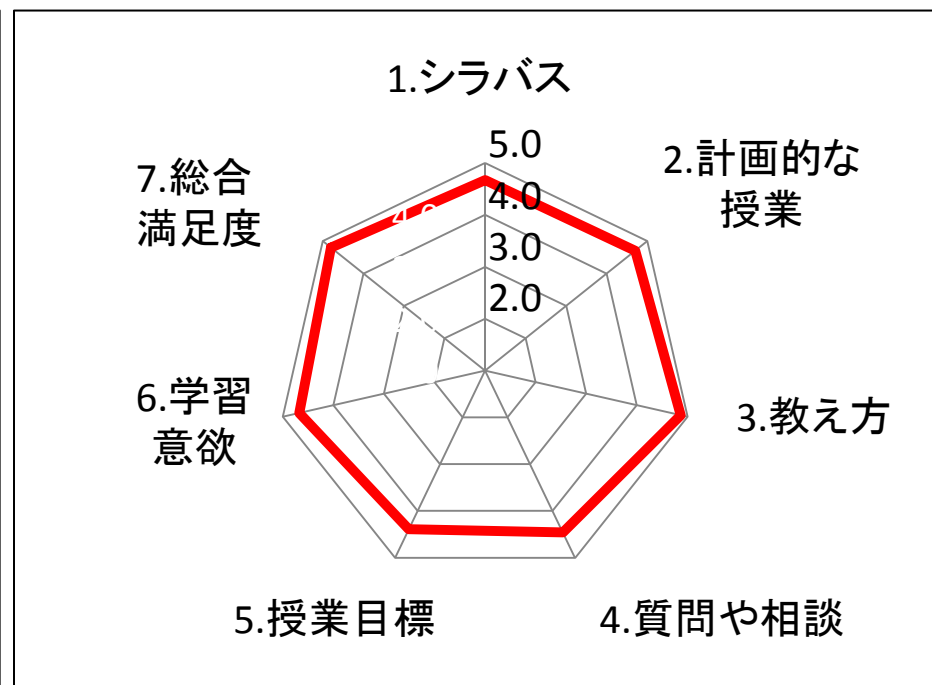
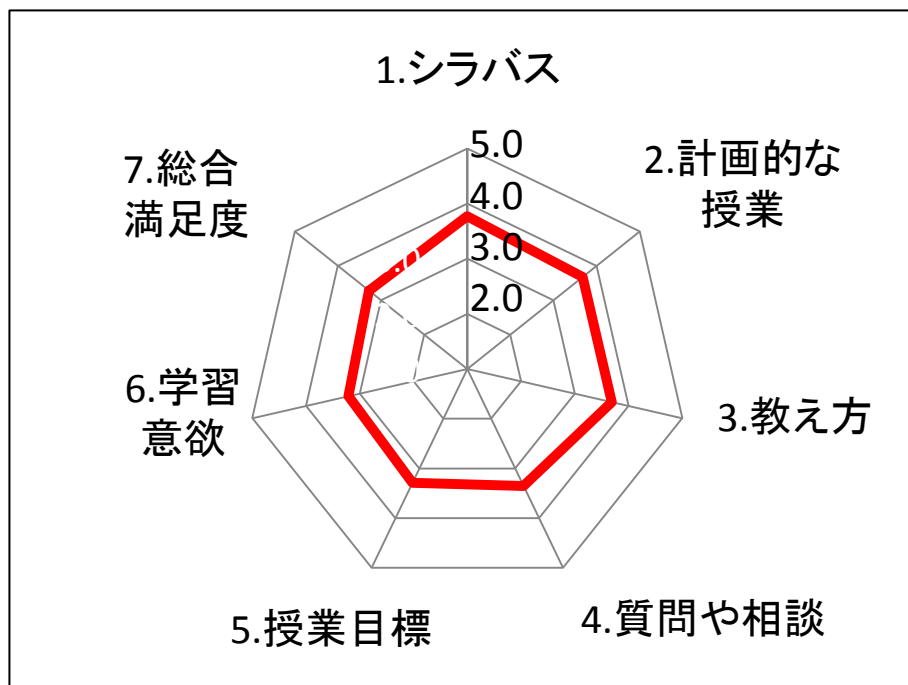
- 8.授業では、学生を参加させる工夫があった。
- 9.自分は、授業中は集中して取り組むことができた。
- 10.自分は、授業を通して自主的に探究する力が高まった。
- 11.自分は、授業を通して批判的に考える力が高まった。
- 12.自分は、授業を通して自己表現力が高まった。



7. 「マスメディアと表現」の学生による授業評価②

マスメディアと表現

初等理科教育





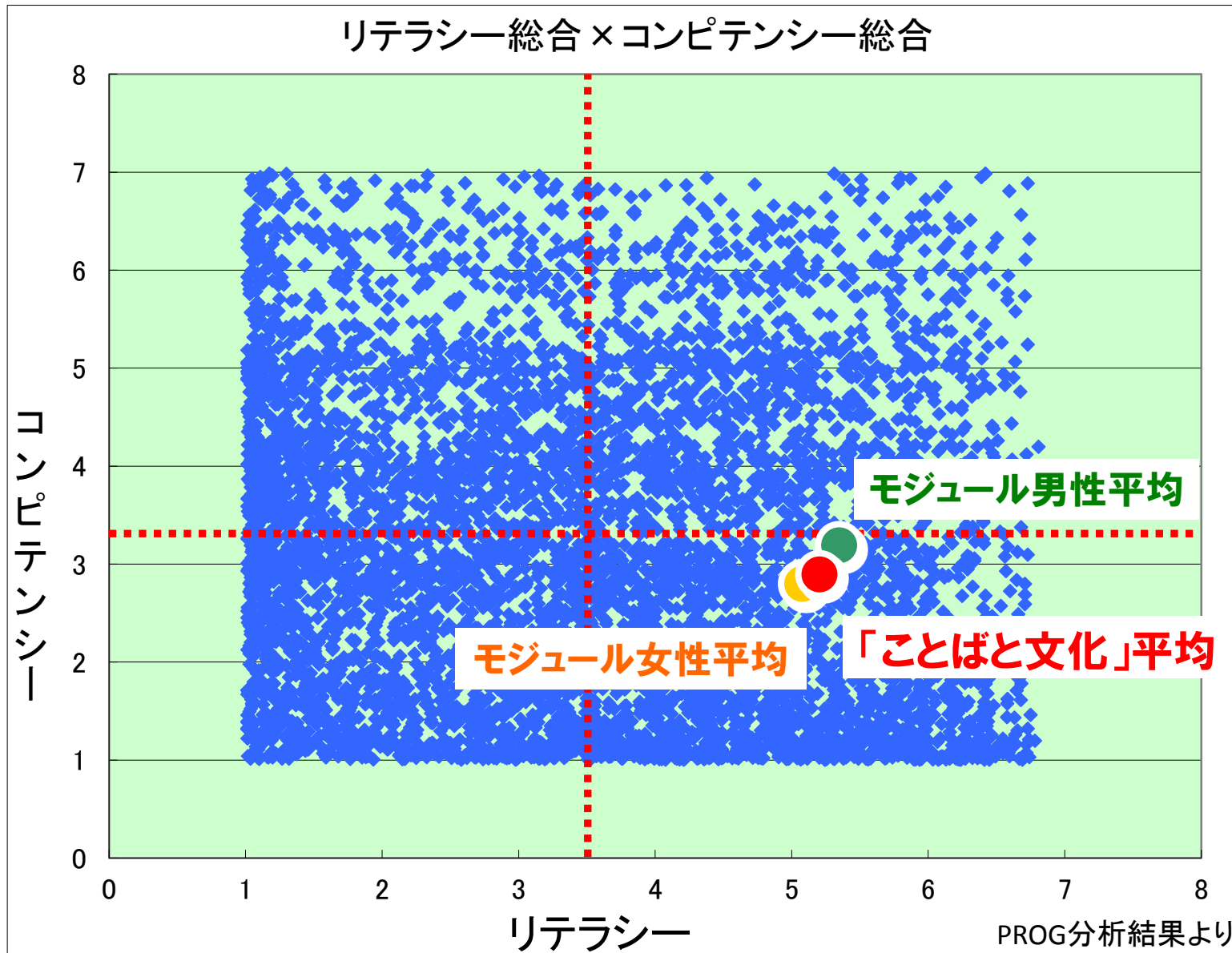
8. 反省点

1. 学生に授業目標を徹底することができなかった
2. グループ活動の活性化が不十分だった
3. プレゼンテーション等の楽しさを味あわせることができなかった
4. 課題に向かう態度育成ができなかった
5. 教員と学生の距離が縮まらなかった



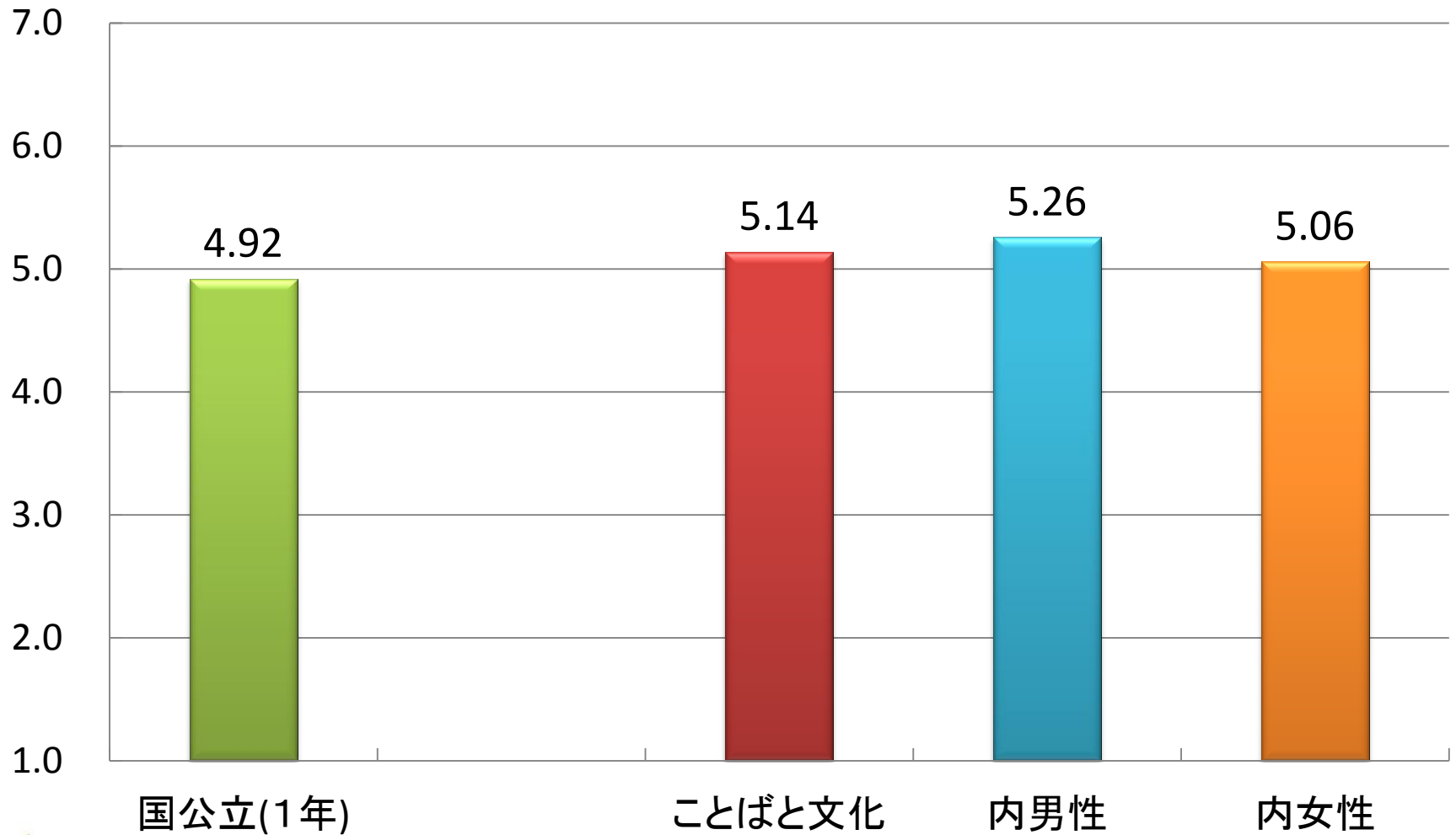


1. 本学全体の学生のPROG評価



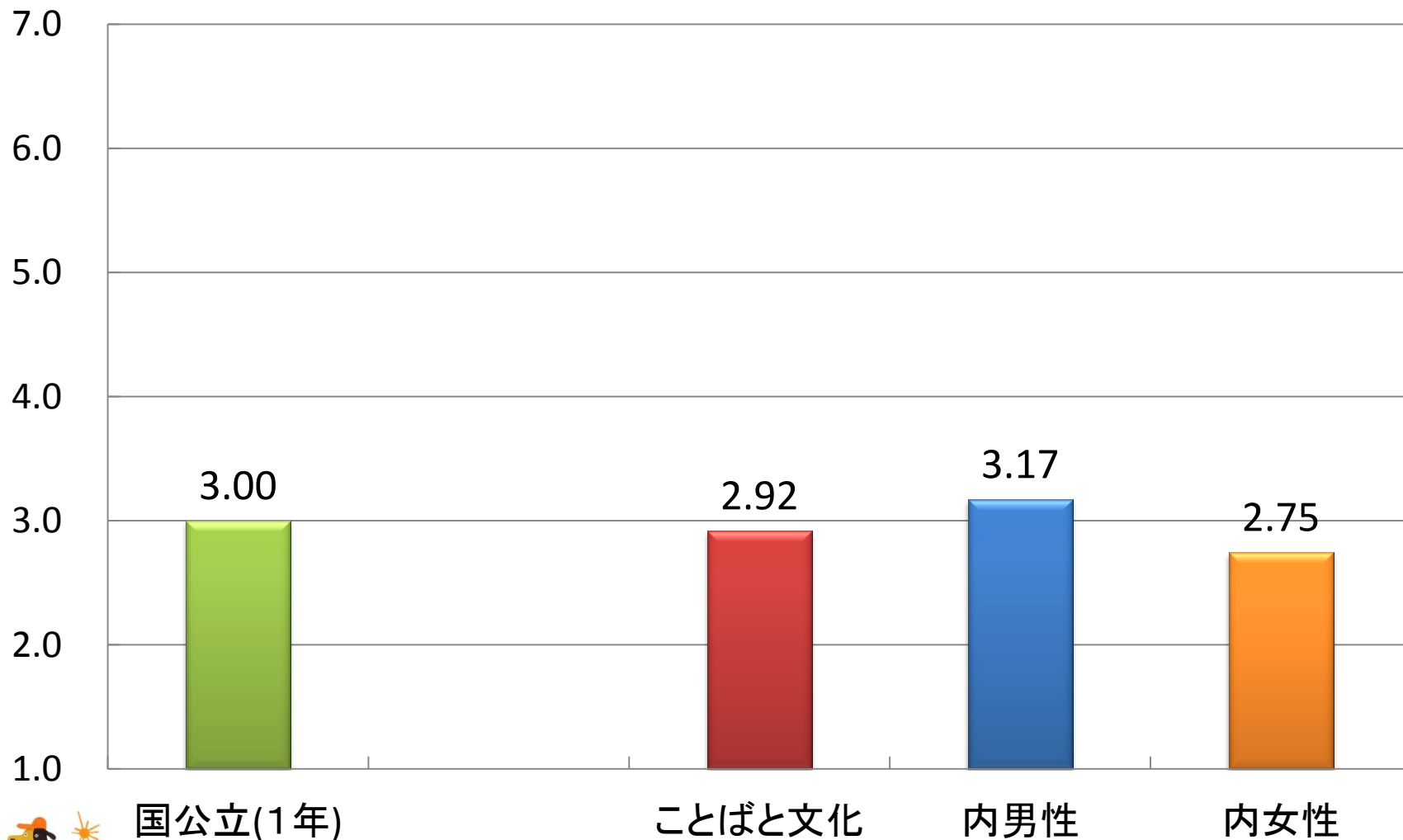
2. 「ことばと文化」受講生のPROG評価(リテラシー)

リテラシー総合



3. 「ことばと文化」受講生のPROG評価(コンピテンシー)

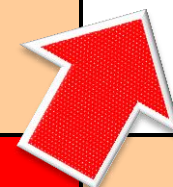
コンピテンシー総合





4. 「ことばと文化」受講生のPROG評価(レベル分布)

コンピテンシー	7	—	—	—	—
	5,6	—	4.7	7.0	4.7
	3,4	3.5	12.8	15.1	4.7
	1,2	1.2	8.1	27.9	10.5
		1,2	3,4	5,6	7
リテラシー					



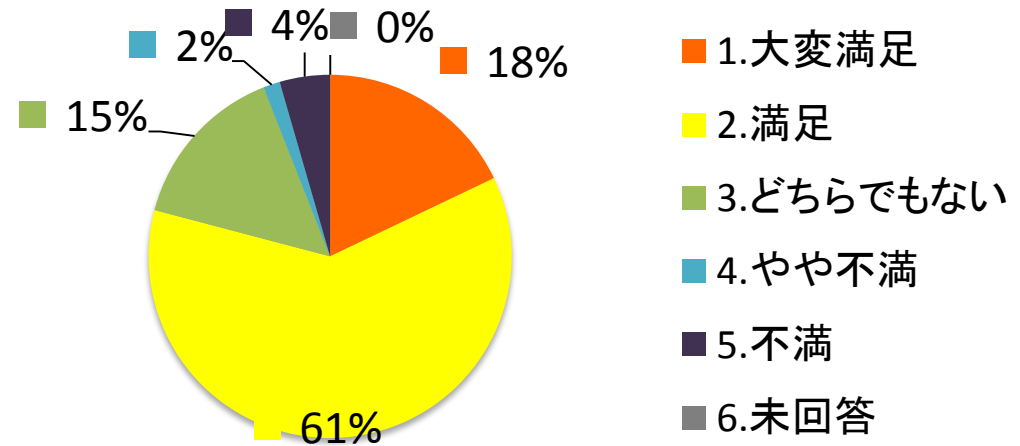
スコア ..最もボリュームの多いセル
スコア ..10%以上のセル



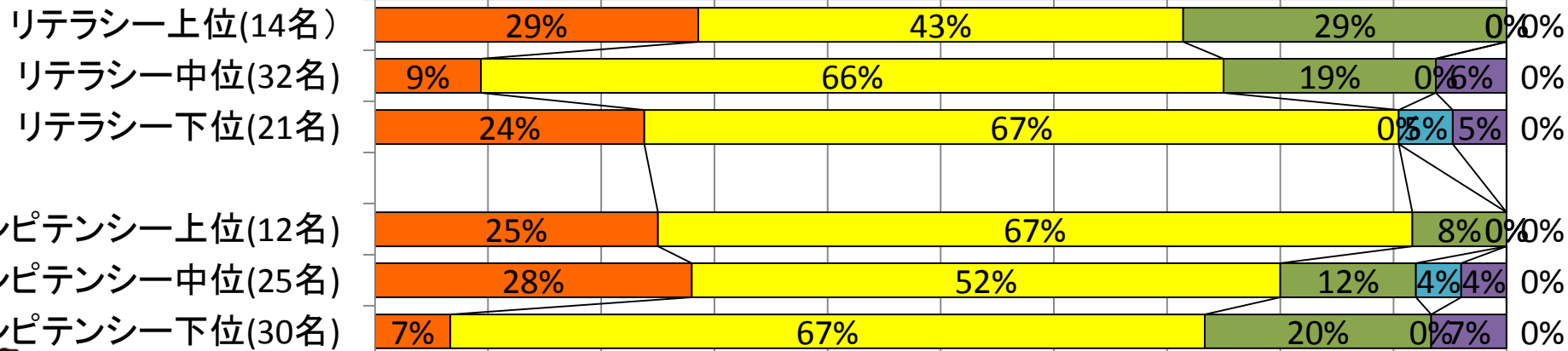


【満足感】 6. PROG説明セミナーでの受講生の反応①

選択肢	人数
1.大変満足	12名
2.満足	41名
3.どちらでもない	10名
4.やや不満	1名
5.不満	3名
6.未回答	0名
計	67名



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



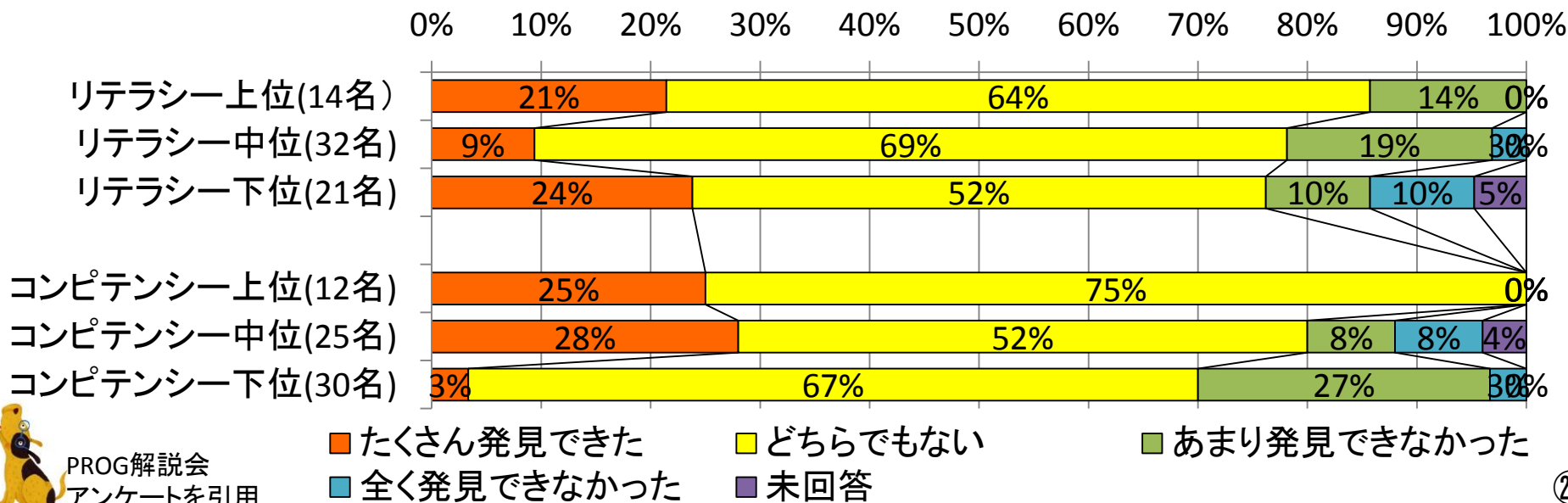
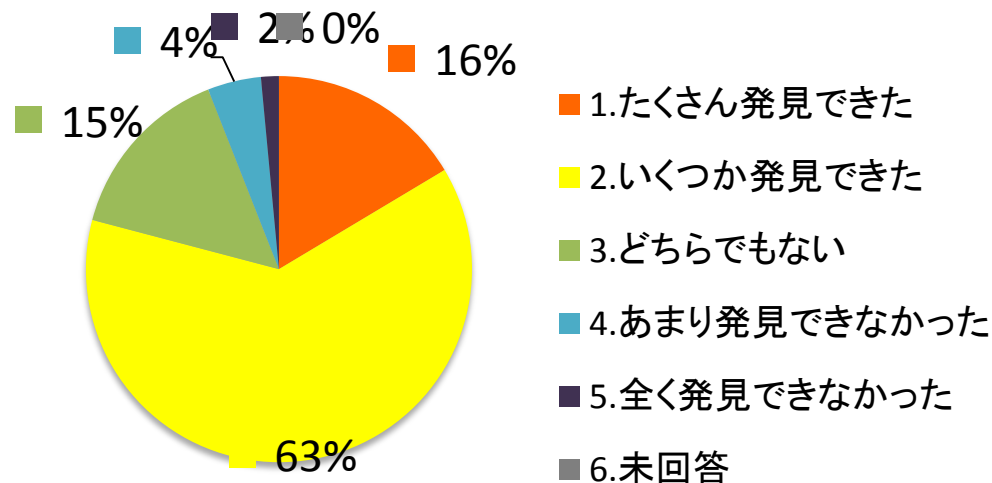
■ 大変満足 ■ 満足 ■ どちらでもない ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答 (25)





【自己発見】7. PROG説明セミナーでの受講生の反応②

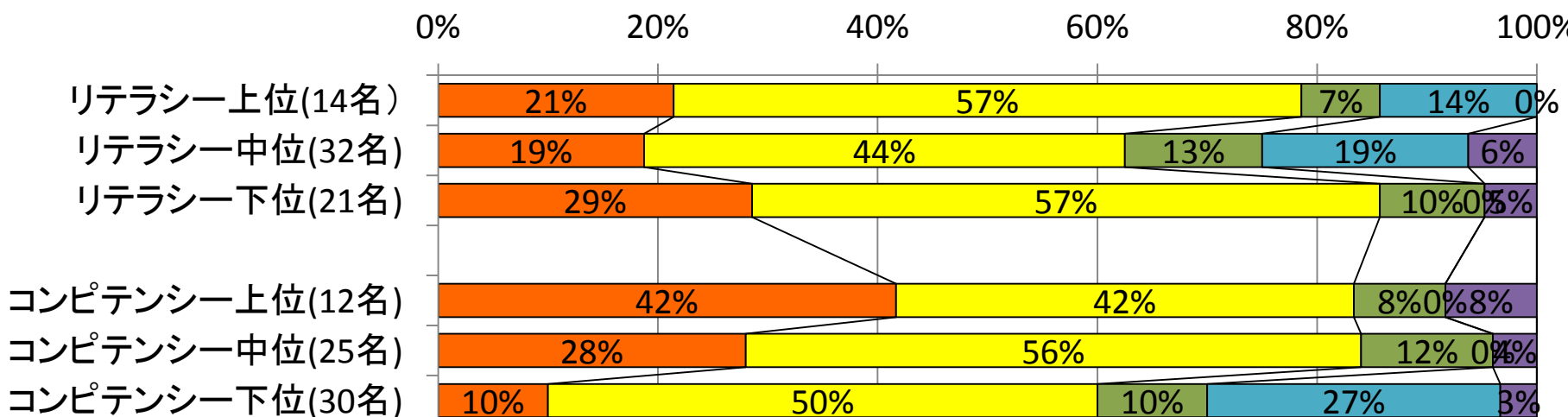
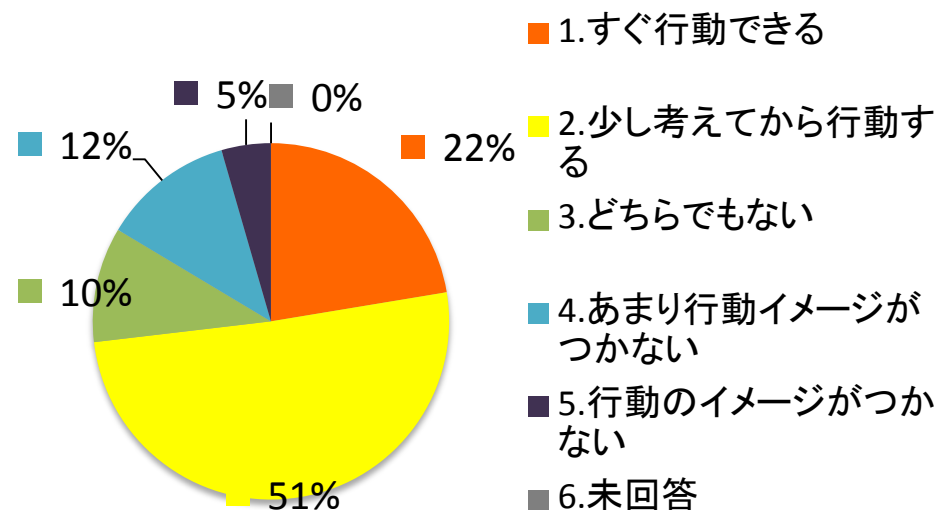
選択肢	人数
1.たくさん発見できた	11名
2.いくつか発見できた	42名
3.どちらでもない	10名
4.あまり発見できなかった	3名
5.全く発見できなかった	1名
6.未回答	0名
計	67名





【開発したい力】 8. PROG説明セミナーでの受講生の反応③

選択肢	人数
1.すぐ行動できる	15名
2.少し考えてから行動する	34名
3.どちらでもない	7名
4.あまり行動イメージがつかない	8名
5.行動のイメージがつかない	3名
6.未回答	0名
計	67名

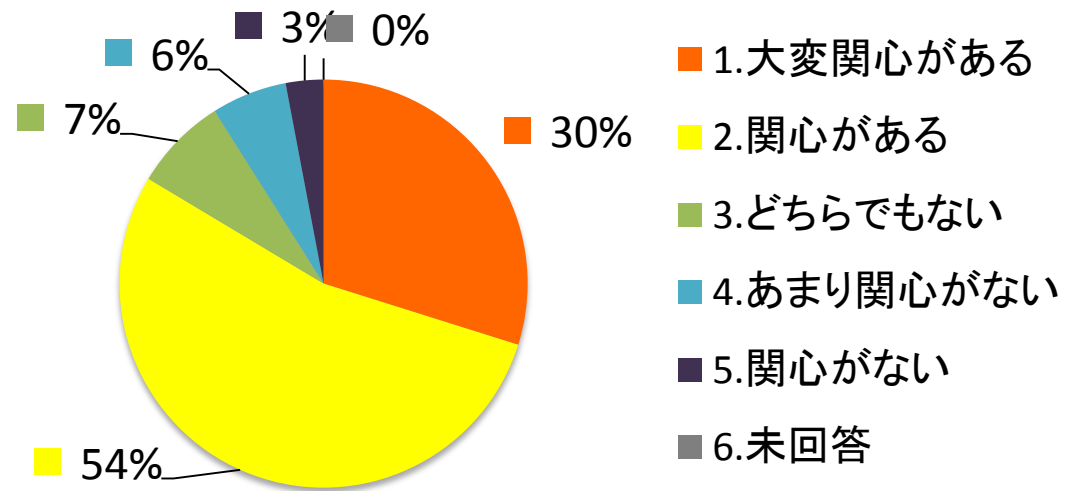


- 1.すぐ行動できる
- 2.少し考えてから行動する
- 3.どちらでもない
- 4.あまり行動イメージがつかない
- 5.行動のイメージがつかない
- 6.未回答

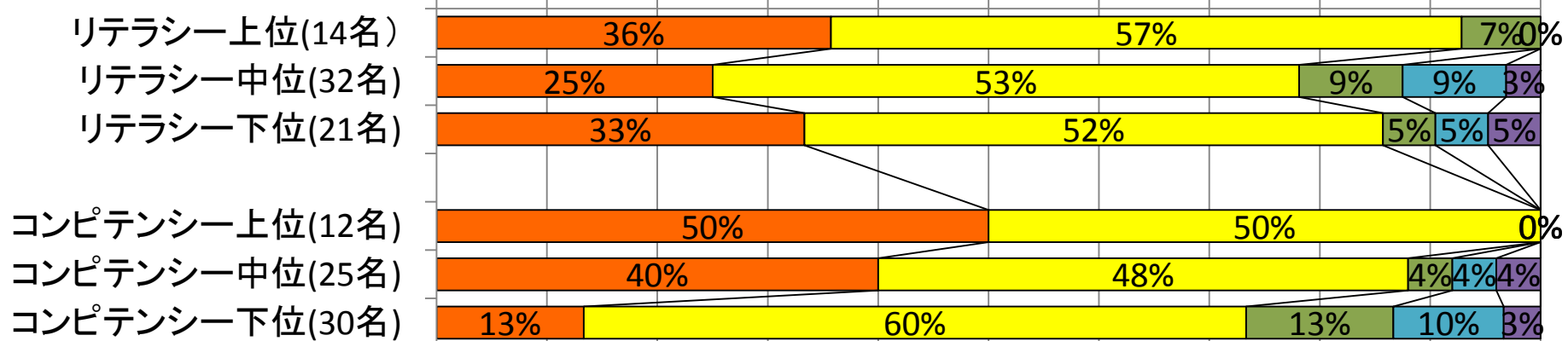


【能力向上の関心】 9. PROG説明セミナーでの受講生の反応④

選択肢	人数
1.大変関心がある	20名
2.関心がある	36名
3.どちらでもない	5名
4.あまり関心がない	4名
5.関心がない	2名
6.未回答	0名
計	67名



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 大変関心がある ■ 関心がある ■ どちらでもない
■ あまり関心がない ■ 関心がない ■ 未回答



PROG解説会
アンケートを引用



新しい教養教育の課題

① 教員の意識改革

教員が手をつなぎ、学生の学修支援にあたる

② 教授方法の改善

多様なアクティブラーニングの実施と積み上げ

③ 学生の意識改革

専門の活用は人間形成の基盤が前提

④ 社会人基礎力育成の見える化

- ・授業評価、PROG等の調査
- ・教員の教育業務評価の改善

